

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570200325		
法人名	公益財団法人 豊郷病院		
事業所名	彦根市グループホームゆうゆう		
所在地	滋賀県彦根市川瀬番場町1015-1		
自己評価作成日	平成24年10月31日	評価結果市町村受理日	平成24年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成24年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域での生活を重視し、明るく、家庭的な雰囲気の中で、本人の生活リズムやペースを大切に、ゆったりとした生活空間を提供させていただきます。
また、認知症リーダー研修、実践者研修修了者も多く、専門的な知識を持ち、十分なアセスメントをし、様々な症状の原因・背景を理解して、御本人が安心した生活を送れるよう支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

公益財団法人豊郷病院が彦根市の指定管理者として運営する当事業所は医療面、介護面に於いて法人グループ挙げてのバックアップの下、2002年に設立された。当事業所は「普通の生活をゆったり気分で仲間と一緒に楽しむ」為に「温かいもてなしの心」で提供し、人権尊重と思いやりの心で支え自信と誇りが持てる人間関係を作る等を盛り込んだ4つの項目を運営理念に謳っている。職員はどこまでもその人を中心に行う、パーソンセンタードケアの実践に努め、利用者と生活を共にしている。利用者は家と同じ環境で安全・安心に、あるがままにゆったりと穏やかな日々を過ごしている。設立後期間も経ち、近隣や自治会と協力し合う近所付き合いが定着した事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事務所内の目立つところに置き、日々の意識付けをしている ・職員採用時、理念を伝える ・理念に基づいたケアの実践を心がけている	地域密着型サービスの意義を全職員は理解をし、日々のサービス提供が理念に適った言動かをミーティングや会議で常に話し合い、理念の共有に努めている。玄関や事務室に理念を掲げ、毎日唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会の行事参加、地域への外出 ・裏庭にいる時など、横の道を歩いている ・方々と挨拶を交わしている ・介護教室、健康教室を地域向けに開いている。	自治会主催の町内清掃、避難訓練、納涼祭に参加している。ホーム等主催の夏祭りには利用者の家族や地域から大勢の参加がある。地区の高校生や大学生の実習や研修も受け入れ地域と親密な交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域に積極的に出かけて行き、交流する中で、認知症への理解を得られるように働きかけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回の運営推進会議開催時、取り組みや入居者状況の報告をしている。また、意見を取り入れている	地域代表や行政出席の下、運営状況、職員の異動、行事予定、評価機関も出席し自己評価及び外部評価の取り組み等報告や協議をしている。職員は内容を議事録やミーティングで共有し質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・彦根市からの介護相談員の受け入れ ・彦根市委託の地域包括支援センターの職員に、運営推進会議に参加していただいている	市の指定管理事業者として介護福祉課には運営について課題の報告や相談し助言を得る等連携を密にしている。運営推進会議に参加している地域包括支援センター職員の助言は運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修に参加し、職員が身体拘束をしないケアを自覚し、ケアに取り組んでいる ・日中、玄関など施錠しておらず、自由に入り出来るようにしている	「身体拘束ゼロセミナー」、「心を通わすコミュニケーション法」等の研修を受講し一人ひとりの人間性を尊重し、拘束ゼロケアに努めている。利用者の行動に職員は目配りや気配りの見守りをしている。玄関の施錠は昼間していない。センサーマットも使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・研修で学び、虐待が見過ごされないよう実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・施設内外での研修に参加し、学ぶ機会を持ち、必要に応じて説明をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用者、家族との契約・解除時に十分な説明を行い、納得を得られるよう図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・介護相談員に来ていただいている ・運営推進会議に家族代表に参加していた ・運営について報告している ・利用者家族の来訪をより増やす為、利用料の支払いを持参して貰う事として成功した。	家族の来訪機会を増やし、意見、要望は家族会、家族の訪問時に傾聴している。意見はミーティング等で話し合いケアに反映している。事業所の担当者と公的機関の苦情窓口を重要事項説明書に明記し説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・カンファレンスや会議(月1回程度)の中で、管理者と職員が意見交換をしている ・日々の業務の中でも、お互いに意見を出しやすいような関係作りを行っている	毎月のカンファレンスや会議の他、年1回職員は介護全般に亘り自己評価を実施し、その進捗状況について管理者は個別面談を行ない意見や提案も聴き取り必要に応じ会議に諮り、運営に反映する様努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・キャリアアップシステムを活用することで、スキルアップを図り、職員が働きやすいよう整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員個々に応じた研修に参加している ・資格取得に向けて、勤務調整を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GH部会や彦愛犬の合同研修会に積極的に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・センター方式を活用し、十分なアセスメントを行い、本人の困りごとや要望を聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・担当者を通じて、家族の要望などをお聞きしている ・本人の普段の様子を伝え、関係を深めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の状態やADLに合った福祉用具、社会資源の見極めを行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・行事など昔されていた事を聞き、意見を反映しながら一緒に活動している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族参加の行事では、一緒に食事を作ったりしていただき、ケアについての相談を行い、チームケアの一員となっていただいている ・ケアプランの作成時、十分な説明を行い、本人の思いに添ったケアができるようになっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人との手紙のやり取りや、行きつけの美容院に行っていたり ・きららデイサービスへの参加など、入所以前からの関係が途切れないよう支援している	馴染みの人達との面会を積極的に進め、入居前の地での商店へ買い物や美容院等へ送迎支援したり、同敷地内のデイサービスへ出向き馴染みの人達と親しくする等、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う者同士で外出・外食へ行っていただいたり、食事の席に配慮し、お互いの関係性を大切に支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他施設との連携を行い、情報提供をさせていただいている ・環境が変わっても、本人らしく生活していたけるよう、相談・援助に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・センター方式により、本人の思いを把握する ・日々の会話や生活されている様子から、本人の思いや希望を汲み取り、ケアにつなげている	センター方式による情報の把握に加え、利用者の何気ない会話や行動から意向の把握に努めている。意向の表出が弱い場合、職員の声掛けや誘導に対する反応や表情から思いを推測し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式や年代別背景の活用、本人・家族との会話の中から聞き取る ・以前使われていたサービス業者から情報提供をいただく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の暮らしの中で気付きを持つよう心がけている ・健康チェック表を利用することにより、本人の体調管理にも注意している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・カンファレンスなどで、チーム内でのケアの統一を図っている ・アセスメントを十分に行い、必要に応じて家族・訪問看護参加のカンファレンスを行っている	計画作成者はセンター方式の暮らしの情報シートを活用しカンファレンスで協議して作成する。状態に変化があれば都度、変化が無くても3ヶ月毎に計画を見直し、いずれも家族に承諾印を得て写しを手渡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・職員間で使用している申し送りノート、ケース記録、健康チェック表を記入し、出勤時・業務に入る前に確認している。また、ケアプランについては、定期的(3ヶ月毎)に評価・見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人や家族のニーズに合わせ、緊急時だけでなく、必要に応じて病院への送迎・付き添いを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の幼稚園児との交流を行っている ・自治会の活動に参加している ・近くのスーパーへ買い物に行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前から行っておられた馴染みの病院に、継続して受診していただいている ・受診時には医療連携シートにて本人の様子を報告している	全員それぞれのかかりつけ医に受診している。訪看ステーションの看護師が毎週、利用者の状態を観察、把握し利用者の受診時、医療連携シートに症状等情報を記入し家族、かかりつけ医と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週に1回の訪問看護師の来所時、日頃の気づき・変化について報告し、アドバイスを受けている ・緊急時には24時間体制で対応していただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院されたときは、介護サマリーを記入し、情報を伝えている。また、その病院の医療連携室などの方と連絡取り合い、退院時にも協力している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に重度化終末期に向けた指針を説明している。当ホームで出来る事、出来ない事を見極め、状態変化が認められた時には、必要に応じて医療や訪問看護と連携を取りながら支援に取り組んでいる	終末期対応を実施し4例経験している。重度化、終末期ケア対応指針書を作成し利用契約時に説明している。重度化に至った段階で「看取り介護についての同意書」を家族等と交わしている。職員全員は終末期ケアの技能と心構えを習得し対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救命救急の研修に積極的に参加している ・リスクマネジメントを行い、事故防止に努め、事故発生時には初期対応が出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の防災訓練(夜間対応も含め)の実施 ・地域の方々にも事前に日時を伝え、協力体制を築いている運営推進会議メンバー、地域の協力、見学は？	消防署指導で年2回、内1回は夜間災害を想定した防災訓練を実施している。夜勤者と警備会社とでダイレクトコールで連携強化を図っている。防災マニュアルを整備している。訓練に自治会、近隣の見学が有る。	近隣地域住民の見学だけでなく、避難の手伝い等協力が得られる様期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・自尊心を傷つけないような言葉掛けの徹底を行っている。居室に入らせていただく時は、ノックをしたり、本人の了解をいただいている ・排泄や入浴時には、利用者の人権を尊重し言葉使いをまろやかに訓練している	職員は人権尊重やプライバシー確保の研修を受講し、倫理観を持ち人を人として尊重する事を常に話し合っている。排泄や入浴時には人権を尊重した言動の配慮や利用者には否定する言葉を使わず依頼や誘導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・その時その時の本人の様子や言葉から、何を求めておられるのかという思いを汲み取り、いくつかの選択肢を提案し、自己決定していただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・1日のスケジュールを決めず、個々の状態、ペースに合わせた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・馴染みの美容院へ行かれたり、更衣時は本人の好みの服を選んでいただいている ・個人の好みを把握するよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・入所時に好き嫌いを知り、提供している ・出来る事、出来ない事を把握し、一緒に準備している ・季節を感じる食事や外食を楽しんでいる	献立は利用者と相談しながら決め食材の購入を利用者も楽しんでも。能力に応じ調理や配膳、後片付けを行なっている。季節毎の食事会では利用者の得意料理で楽しんでいる。職員は利用者と一緒に同じ物を食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・健康チェック表に摂取量を記入し、確認を行っている ・好みのものを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・義歯消毒、歯磨きの声かけ、確認している ・訪問歯科の受け入れ ・食後に緑茶の提供 ・口腔体操を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・夜間トイレに行かれない方には、居室にポータブルトイレを設置し、自分で行っていただけるような自立支援に向けた支援をしている ・トイレの声かけ、布パンツの使用	各々の排泄パターンを把握し、健康チェック表に記録している。それを参考に生活リズムや習慣、所作から適時、トイレ誘導し自立の排泄支援に努めている。5名がポータブルトイレを持ち込んでいるが利用は少ない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・入所前からの習慣として、牛乳を飲んでいただいている方がおられたり、オリゴ糖を摂っておられる方もいる ・運動不足にならないよう、体操への声かけ・誘導、散歩の実施		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・本人の希望される時間帯に入っていただいている	毎日入浴を基本にしているが少なくとも2日に1回は入浴し、従来からの生活習慣で14時～20時頃迄に自由に入浴を楽しんで貰う様に支援している。浴室暖房を設置し利用者に優しい配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・室内の温度調節、安心・安全な明るさの照明 ・昼間の傾眠見られれば、昼寝していただく		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬ファイルを活用し、いつでも確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・地域の行事に参加 ・家事の声かけ ・飲み物・おやつは本人希望のものを提供		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・地域の行事、祭り、誕生日の外出 ・買い物 ・季節を感じられる外出	毎日の買い物や利用者の希望に沿うよう日常的に散歩している。夏場は近くの公園でラジオ体操に参加している。ほぼ毎月全員で外食や季節を感じ取る花見のドライブをデイサービスの車両を活用している。外出頻度は多く、利用者は楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物に行った際、欲しい物を本人の所持金で購入していただく ・金銭管理の難しい方は、職員管理とし、使用時に預かり金を手渡し、支払っていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・いつでも自由に電話をかけられる環境にしている ・家族や知人への年賀状や、手紙のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の花や絵を飾っている ・天窓からの光は強く、和紙を貼ることで刺激を和らげ心地よい光にしている ・風呂場の脱衣場にエアコンを設置し、急激な温度差をなくしている	台所、食堂、居間は吹き抜けの高い天井で天窓からの採光も和紙で日差しを柔らかくする様工夫している。角張った部分に緩衝材を取り付ける等、利用者に優しい工夫を凝らしている。利用者は大半の時間を居間でお喋りに興じたり、寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・居間のソファで気の合ったもの同士談笑されたり、日々過ごされているソファ席で横になられたりしている ・会話の難しい方には、すぐに職員がつきトラブルを防ぐよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入所時に馴染みの家具や布団を持ってきていただき、環境の変化が出来る限り少なくすむようにしている ・家族来所時には、居室で気兼ねなく過ごしていただいている	居室には立派な表札を掲げている。入居時に使い慣れた筆筒、椅子、テレビや身の回り小物を持ち込んでいる。家族の写真を飾る等、部屋の模様替え清掃は利用者の希望があれば対応し独自の居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・洗濯機は使用するボタン以外は目隠しし、混乱されないようにしている ・トイレには「便所、の張り紙をし、分かりやすくすると共に、目線が低い方には低位置に張り紙をしている		